2019年4月16日

２０１８年度
『視覚障害者向け就職・進学のためのＩＴ技能講習』
実施報告書

**兵庫県視覚障害者福祉協会
ＩＣＴ相談担当・講師　岸本 将志**

**１．講習開催日時と参加者数**

視覚障害者の就学・就職に役立つICT講習会は、以下の日時に開催した。開催場所は全て兵庫県点字図書館内であった。

それぞれの講習会の参加者人数は以下の通りであった。

表1.1.前期講習会の開催実績と参加者数

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **日時** | **テーマ** | **参加者数** | **内新規参加者数** | **対象像** |
| 10月27日 | 画面拡大機能の調整方法Word・Excelの基本操作 | ４(０) | － | 画面拡大機能利用者(弱視者) |
| 10月28日 | 音声読み上げソフトの基礎的利用法Word・Excelの基本操作 | ６(２) | － | 画面読み上げソフト利用者(全盲者等) |
| 11月24日 | Word・Excelの応用操作 | ３(２) | １(０) | 画面拡大機能利用者 |
| 11月25日 | テキストエディタとWordの応用操作 | ６(２) | ０(０) | 読み上げソフト利用者 |
| 12月22日 | インターネット・メール活用とマナーについて | ５(１) | １(０) | 画面拡大機能利用者 |
| 12月23日 | インターネット・メール活用とマナーについて | ５(３) | ０(０) | 読み上げソフト利用者 |

※( )内は参加申込をしていたものの当日体調不良等で不参加になった人数

表1.2.後期講習会の開催実績と参加者数

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **日時** | **テーマ** | **参加者数** | **内新規参加者数** | **対象像** |
| 1月26日 | 画面拡大機能の調整方法Word・Excelの基本操作 | ５(０) | １(０) | 画面拡大機能利用者(弱視者) |
| 1月27日 | 音声読み上げソフトの基礎的利用法Word・Excelの基本操作 | ５(０) | ３(０) | 画面読み上げソフト利用者(全盲者等) |
| 2月23日 | Word・Excelの応用操作 | ３(２) | ０(０) | 画面拡大機能利用者 |
| 2月24日 | テキストエディタとWordの応用操作 | ５(２) | １(０) | 読み上げソフト利用者 |
| 3月23日 | インターネット・メール活用とマナーについて | ５(２) | ２(０) | 画面拡大機能利用者 |
| 3月24日 | インターネット・メール活用とマナーについて | ４(２) | ０(０) | 読み上げソフト利用者 |

※( )内は参加申込をしていたものの当日体調不良等で不参加になった人数

※前期(表1.1.)と後期(表1.2.)でテーマが同一であるのは、本講習会が前期と後期で同じ内容とすることで、受講機会の増加・学習内容の定着を狙ってのことである。

**１．１．講習の実施形態**

　講習会は前期・後期を通じて兵庫県点字図書館の談話スペースにて行った。写真1.1.のように机を縦長に連結して配置し、その両側に着席していただいた。参加者の付添者やガイドヘルパーは参加者の隣に着席していただいた。講師は参加者のパソコン操作を監督できるよう、適時席の周りを周回した。

　講習会は、講師による解説と実技を交互に繰り返しつつ進めた。原則としてテキスト等を読みながら作業できないので、講師の口頭による解説と実技中の適時指導のみで内容を習得できるよう配慮した。

したがって、テキストや参考資料については、画面拡大利用者には印刷したテキスト（大活字で印刷・２２ポイントゴシック体の文字を使用）を当日配布した。音声読み上げ利用者には、テキストデータを個別にメール送信した。いずれのテキストも参加者が復習できることを目的として作製・配布した。

**１．２．事前告知・広報活動について**

　本講習会は下記の媒体に告知を依頼した。加えて、講師・協会職員の知人等でニーズのありそうな方に個別に参加をお誘いした。

・点字毎日（１１月に講習会の詳細についての記事掲載）

・兵庫県立視覚特別支援学校（講習会要項をＦＡＸし、ニーズのありそうな生徒への情報提供を依頼）

・神戸市立盲学校（講習会要項を全生徒４０名に配布）

・視覚障害者当事者団体のうち、兵庫県の会員が多い４団体にメールを送信

・協会発行の『県視協情報』１月号にお知らせ記事を掲載

・協会ICT相談窓口における告知（ニーズのありそうな方に口頭で告知）



写真1.1.講習会の様子

縦長に配置したテーブルの両端に参加者と付添者が着席している。
参加者のプライバシーに配慮して写真にモザイク加工を施しています。

**２．参加者の傾向**

主要な属性別に参加者を集計すると、表2.1.の通りとなった。この集計では、前期・後期を通じ、参加者の実数(１回だけ参加した者も６回全て参加した者も１名とする)を元にした。画面拡大クラスと音声読み上げクラスの両方に参加した者も１名とした。

概観すると、参加者像は(1)１０代以下の学生、(2)３０～５０代の求職者、(3)在職中ではあるものの、パソコン技能を身につけたいと希望する者の３種類に大別できた。参加者の年代は幅広く、最年少は９歳、最年長は７８歳と多彩であったものの、２０代のみ参加者がいなかった。また、男女比はほぼ２：１となり、偏りがみられた。

各参加者のパソコンの基本的な技能を評価したところ、講師の指示にしたがってスムーズに操作したり、タイピングが身についたりしている者は全体の半数程度であった。残りの半数は、パソコンの使用経験こそあるものの、講習についていけるだけの基礎が不十分であった。さらに、視覚障害者のパソコン利用において非常に重要な画面拡大・音声読み上げ機能の制御についてはほとんどの者が不十分で、適切な設定を行ったり、画面表示内容を把握したり出来なかった。

なお、前期と後期で上記の傾向に大きな差はみられなかったことから、開催時期による影響は少ないと判断できると思われる。

続いて、参加者の出欠状況をみたところ、毎回２名程度の者が参加できないことが分かった。さらに、３回１セットの講習会に３回とも参加した者を集計したところ、全参加者１９名中１０名と半数程度にとどまった。前期後期ともに受講した者を見ると、延べ６名と少ないことも分かった。(表2.2.)

欠席者の理由として最も多かったのは体調不良であり、続いて急用によるもの、忌引であった。

表2.1.主な属性別の参加者集計

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **属性** | **人数** | **備考** |
| **男女別** | 男性…１３　女性…６ |  |
| **年代別** | 10代以下…６　20代…０　30代…３40代…４　50代…４　60代以上…２ |  |
| **職業別** | 学生…７　会社員…４　自営…１　三療…０公務員・団体職員…１　求職中・その他…６ | 治療院等経営者は三療に含む。家事手伝いと盲学校理療専門科学生は求職中に含む。 |
| **地域別** | 阪神地域…１７　県西部…２　県北部…０ | 加古川市以西を県西部と定義。 |
| **PC技能別** | PC初体験…０　基本操作に習熟…８拡大・読み上げに習熟…２　文字入力に習熟…８ | 各技能の程度は注釈にて定義。 |

※PC技能別の分類については、"PC初体験”を『パソコンを使ったことがなく、初めて触る程度』、”基本操作に習熟”を『実用的な速さで講師に指示されたキー操作・クリック操作が可能な程度操作に習熟している』、”拡大・読み上げに習熟”を『画面拡大や音声読み上げ機能を自身の眼の状態や作業内容に応じて適切に設定し、画面表示内容を適時把握できること』、”文字入力に習熟”を『実用的な速度でタイピングが可能な程度の習熟』として定義した。

表2.2.参加者の出席回数集計

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **回数** | **人数** | **回数** | **人数** |
| **６回** | ０名 | **３回** | ６名（拡大で３名、音声で３名） |
| **５回** | ３名（拡大で１名、音声で２名） | **２回** | １名（拡大で０名、音声で１名） |
| **４回** | ３名（拡大で２名、音声で１名） | **１回** | ７名（拡大で２名、音声で５名） |

**３．本講習会による効果**

　参加者が本講習会を通じて直接的に就労につながった事例はなかったものの、下記のような波及的効果がみられた。

１．障害者を対象とした国家公務員採用試験において、本講習会のテキストエディタ操作とWord操作の内容が役立った。
(本講習中に個別プログラムを作成して練習していただいたところ、試験会場でパソコンを自力で準備し、テキストデータの問題文を読む・答案することができるようになった。)

２．本講習会をきっかけに、平日のICT相談および福祉用具の購入相談に引き継げた者が３名、協会会員に加入した者が１名、今後の協会主催プログラムへの協力を得られる事になった者が１名、協会同行援護サービス利用者が数名おり、協会の利用促進に一定の成果を上げられた。

３．昼休憩中に参加者同士の学校・職場での情報交流、世代間交流の場になった。
(小中学生の保護者同士も、互いの学校生活や進学について情報交換していた。)

４．参加者の感想として、下記のような声が上がった。

『普段の業務でおかしいと思いつつも何となく処理していることや、エラーメッセージの内容がよく理解できた。』

『様々な操作方法やショートカットキーを紹介してくれたのが役立った。』

『ソフトウェアの更新(アップデート)について取り上げてくれたので勉強になった。職場パソコンの不具合を自力で解決できた。』

『WordやExcelを何から勉強すれば良いのか理解できた。』

『音声読み上げと画面拡大の両方を体験できたので、自分の目の状態にわせてどちらを使っていくべきかの参考材料になった。』

『他の事業所では就労に特化した講座がないか、あったとしても失業者しか対象でない。本講座に参加できて良かった。』

『小中学生は参加できないことがほとんどなので参加できて良かった。』

『平日の昼間(９時～１７時)開催でないので、仕事や学校と重ならず参加しやすかった。』

『連続で参加するのが難しい。３回１セットだが、途中参加しても良いのかためらった。』

『PowerPointについても講習して欲しい。』

『無料の音声読み上げソフトについて掘り下げた講習して欲しい。』

参加者の声を集約すると、WordやExcelの学習やパソコンのトラブルに対応する力をつけることに本講習会が寄与したといえる。加えて、現在就学・就労中の者に学習の機会を与えることにも寄与したといえる。

**４．次年度開催に向けた課題**

講習会を実施して以上の実績をふまえつつ、下記の通り課題を分析する。

**(1)開催形態**

同じ内容を２度開催する形態にしたものの、これを活用したのは全体の1/3程度の利用者しかいなかった。会期を通じて３回参加した者と１回しか参加しなかった者がほぼ同数であること、３回参加した者の中には連続して参加しなかった者も含まれている。

上記のことから、復習を前提にした構成はあまり利用されていない実態がみえてきた。

加えて、１回のみ参加した者が全体の1/3程度を占めていたことから、継続して参加することが難しい実情があることが分かった。急な体調不良等による欠席者は当初から想定していたものの、予想を上回る数であった。１回のみ参加した者を含め、毎回の講座で平均して１名は新規参加者がみられた。

これらを踏まえて考察すると、３回１セットという枠組みではなく、毎回完結の講座を提供することも視野に入れて検討すべきであるといえる。

**(2)カリキュラム**

利用者の声を聴く限り、題材・テーマの選択は適切であったといえる。ただし、PowerPointや音声読み上げソフト等の踏み込んだ情報を求める声も上がっていることから、より広範なテーマを扱うことを検討すべきだろう。

参加者のレベルから振り返ると、Word・Excelの実用的な講習会に耐えうる基礎技能が十分身についていない者が約半数みられた。この参加者層をフォローする、あるいは別個のクラスを編成してカリキュラムを提供することが必須であろう。

なお、基礎技能を備えた者にヒアリングしたところ、タッチタイピングやキーボードショートカットキーによる文字入力を主眼にした操作を障害者職業訓練で受講した者が大半であった。

付言すれば、視覚障害者パソコン利活用の根幹を成すはずの『画面拡大・音声読み上げ機能の利活用』については、就労現場で活用できるレベルに到達している者が少数であった。これらの基礎的な技能を集中的に修得させるカリキュラムを組むことも検討すべきであろう。

**(3)参加者の分布と告知**

幅広い年代層が参加したものの、就職活動が最も盛んになり、かつ職場での適応にも困難が伴いやすい２０代の参加者がみられなかったことは今後の課題となる。この層に向けたピンポイントな告知を行うべきである。

また、地域別でみても、県西部（加古川市以西）および県北部（三田市以北を目安）からの参加者が極端に少なかった。これは単純に県西部・県北部への移動が困難であることと、盲学校等への告知等、県南部に集中していたことが主な要因と考えられる。

次回は県西部や北部へも情報が伝わるよう告知を行うこと、さらに遠方で移動できない参加者に向けた遠隔講習ができないか検討することが課題であるだろう。

以上